

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403327		
法人名	(有)アロー商事		
事業所名	グループホーム我が家 すずらんユニット		
所在地	いわき市平字橋下1番地		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・職員がともに楽しく笑顔にあふれた日常生活が送れるよう、毎月のイベント行事やドライブ、外食などの外出支援を年間通して実施している。そして、それぞれの能力を活かした趣味活動や家事手伝いなど、生活に張り合いを持ちながら安心して暮らしていけるよう支援している。また、入所に伴うストレスを軽減できるよう共用型の通所介護も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい理念を決め職員全員で、利用者が第一で支援し、毎日の生活の中で、できる事できるだけしていく事が毎日の自分らしい生き方になることを理解して支援している。利用者の毎日の日課の掃除や散歩が、体力の維持につながり、おいしく食事をし、良質の睡眠がとれ、精神の落ち着きに繋がりが、最期まで自分らしく生きたいという思いに寄り添い支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつも意識できるように玄関、休憩室、事務所に基本理念を掲示している。定期的に理念を見直す機会を設けている。	職員全員で話し合い、新しく決めて取り組みし始めている。覚えやすい一文字で表し、支援の心の基本を表現している。職員は、利用者が最期まで自分らしく生きられるように、気くばり、目くばり、心くばりをして寄り添い支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、地域行事や祭りなどへの参加を通して交流を深めるよう図っている。	毎日散歩していて、会った人達に挨拶している。地域の老人会の会報に事業所の紹介記事を載せもらったり、地域のお祭りには、座席を用意して貰っている。利用者も喜んで参加し、カラオケや出店の買い物をたのしんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の他の事業所の運営推進会議への参加や、介護相談員としての活動、地域包括センターとの連携を通して地域貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者および利用者家族、老人会長、包括センター職員、地域の他事業所の管理者、地域住民、成年後見人などと話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族全員に連絡して、多数の家族が参加している。行事や事故の報告が主になっている。以前に薬の配布違いがあり、対応に苦慮したがトリプル確認の徹底の助言をうけ現在は更に全員に聞こえるように名前を呼び配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議または地域ケア会議を通して可能な限り、現状や事業所のケアサービスの取り組みを発信している。	管理者が市の介護に関する相談員の仕事を引き受け協力している。散歩時に市役所まで歩き、担当職員に顔を見せたりしている。認定更新時には、担当職員に利用者の生活の様子を伝え連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については施設内(外)の研修へ参加し、職員全員が身体拘束について正しく理解できるよう取り組んでいる。	職員は利用者への気くばり、目くばり、心くばりを徹底していて、常に寄り添うようにしている。言葉による行動制限には、職員どうして注意しあい予防している。帰宅願望のある利用者には、職員が声掛けして一緒に散歩に出かけるなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議やミーティングだけでなく、普段から全員で注意喚起して虐待防止に努めている。施設内でも研修会を定期的に開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者が2名いる。権利擁護センター・地域包括支援センターとも連携を図り、多様なニーズにできる限り対応していけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学にこられた際にはパンフレット等を用いて概要等を必ず説明している。入所が決定し、契約を行う際には重要事項説明書にて時間をかけて十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席していただいたり、面会で来所された際には、近況説明や意見交換を行うようにしています。また、玄関にはご意見箱も設置している。	家族の訪問が多く、常に意見や要望を気軽に話してもらえる様な雰囲気作りに留意している。出来る事はなるべく本人に任せて欲しいとの要望に、掃除や洗い物、料理やお茶入れ等、得意な分野で役割を持ち、生き甲斐に繋がる様支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見や提案等をがないか、随時話し合いの場を設け運営に反映させるようにしている。困難事案については全体会議やユニット会議など全員で検討するようにしている。	管理者は常に職員の意見や要望を聞き取り、明るく・楽しく働ける職場の環境作りを心掛けている。ストレスを溜めない介護を目指し、全職員で話し合い検討しながら、より良い支援に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験、勤務状況、資格取得により賃金を引き上げています。各自の能力に合わせた研修への受講費用の補助等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施している施設内研修だけでなく、個々のレベルに応じて認知症実践者研修など外部研修会への参加機会を設けている。初任者研修・実務者研修などの受講費用の助成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、各研修会に参加して同業者との交流を通して情報交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談する機会を設け、情報収集に努めてサービスに活かしている。入居後は傾聴を心がけ本人が何でも話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約時にはなるべく多くのことをお話いただき情報収集に時間をかけこれからのケアにつながるよう心がけている。来所時にはご家族が気軽に相談できる環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向だけでなく、前ケアマネ・主治医など可能な限り情報を集めて必要な支援の方法を考え、適切な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状態や能力にあわせて、それぞれの出来る範囲で生活全般にわたる家事と一緒にいるよう声かけと雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会や外出、通院対応だけでなく、イベントや家族会、運営推進会議など、ご家族に無理のない範囲で参加を呼びかけ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が気軽に訪問できる馴染みの店、美容院、病院など本人の要望を聞き、馴染みの場所へ外出できるよう努めている。	家族や友人の訪問が多く、外食を楽しんだり、お盆には墓参りに行く等、継続的な交流が出来ている。馴染みの床屋に歩いて行ったり、お気に入りの美容室で毛染めやパーマをかける等、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様の情報を共有し理解を深めることで、生活を通して利用者同士がトラブルなく関わっていけるよう配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約終了後も、面会などでご本人様の様子の把握し、気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話や共にする生活の中で、信頼関係を深めていき、本心を汲み取れるような雰囲気作りを心がけている。また、意思表示が困難な場合は、表情やしぐさ、行動から本人の立場に立って検討している。	丁寧な見守りで、一人ひとりの言葉や表情の変化から思いを推し量り、全職員で共有し、状況に応じて対応している。利用者の良い所を見つけ合い、伸ばしてもらいながら、本人主体の日常生活が送れる様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の談話やご家族様からの情報からその方を深く知るよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理(バイタル・食事量・水分量・排泄状況)、日々の様子について記録し、定期的カンファレンスを開催し、職員間での情報交換、共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を設け、センター方式を活用してアセスメントを実施している。また、定期的カンファレンスを開催し、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、具体的に短期・長期の目標を立て、全職員と意見交換を行いながら、より良い日常生活が送れるような計画作りを行っている。状況の変化に応じ見直し、適切なケアに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を個別記録、申し送りノート等で情報共有し、ミーティング事例検討し、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型認知症対応型通所介護、医療連携体制等の指定を受けりロケーションダメージの軽減を図り、ターミナルケア対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理美容院へ通ったり、買い物介助、かかりつけ医への通院介助など、自宅で暮らしていた時と変わらない生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医、施設の協力医の受診にて柔軟に対応している。月に2回、施設の協力医の往診があり、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の望むかかりつけ医に受診している。専門科の受診には家族の協力を得ているが、職員も同行して、適切に病状を伝えたり、その後の対処や対応の指示を受けてきて、支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回以上の提携医療機関の訪問看護師による体調確認があり、健康相談、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、また入院中も病院関係者との情報交換を積極的に行い、早期退院に向けて家族や病院関係者と協力体制が築けるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りを含めた説明を行い、ご本人、ご家族の意向を確認しています。状態変化が見られた際には、ご家族・主治医と話し合いを重ね、施設で出来ることを十分に説明した上で今後の方針を決定しています。	利用者本人や家族の意向を繰り返し確認して、希望する場合には、最期まで事業所で過ごせるようにしている。協力病院の医師や看護師の指導や協力を受け、家族の協力を得て職員が寄り添い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な、緊急時対応についての勉強会を行っている。また、ほぼ全員のスタッフが普通救命講習Ⅰを受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導の下、年2回の避難訓練、および毎月の事業所内の自主訓練を実施している。	毎月の訓練は、夜間を想定したり、水害などの自然災害も想定している。アパートの住民の協力や垂直移動や、全員が自動車に乗り込むまでの時間の短縮を計れるように訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者に対しての声かけ、対応について話し合いながら、ホームの理念に近づけるよう努力している。	職員は、利用者を一番に考えて尊厳やプライバシーに配慮した対応している。利用者が自分で選べる機会を増やせるよう声掛けして、自分で決め自分らしい生活ができるように寄り添い、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを通して、その方望んでいることが汲み取れるよう気づきと声かけを大切にしています。また、認知の状態に応じて選択的な声かけをするなど工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、声かけやお誘いはするものの、無理強いはせず、ご本人の意向、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容に通ったり、困難な利用者は訪問理美容を利用している。身だしなみやおしゃれは本人に任せている。利用者の状態によって職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで利用者と職員が一緒に行っている。また、定期的にみんなでおやつ作り等を行うなどしている。	夏野菜を庭で育て、食材として使ったり、どらやきやお好み焼きなどホットプレートを使いおやつ作りを楽しんでいる。職員も一緒に楽しく食事をしていてなごやかな雰囲気になっている。食後には、利用者も片付けを積極的にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎日記録している。利用者の好み希望に応じた量、形態に応じた食事支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には口腔体操を行い、嚥下租借能力の維持が図れるよう努めています。また、毎食後口腔ケアを行い、就寝前には義歯洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を毎日記録をして把握に努めている。また、個々の排泄パターンに応じた声かけを行い、失禁を減らせるよう支援している。	利用者の体格に合った下着を選び、自分で楽に上げ下げ出来る様工夫したり、一人ひとりの生活のリズムに合わせたさりげない声掛け・誘導で、トイレで排泄出来る様支援している。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や消化の良い食事の提供、十分な水分補給、運動等でそれぞれに合わせた取り組みをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮した上で、少なくとも週2～3回の入浴機会が持てるよう対応しています。ご本人の希望や体の汚染状況等に応じて入浴対応しています。また、重度の方に対しては複数職員で介助している。	職員が一方向的に決めるのではなく、利用者の希望に合わせて、のんびり・ゆったり入浴出来る様支援している。柚湯や菖蒲湯で季節を感じてもらったり、足元が冷える時期には、足湯が喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後より照明の調整を行ったり、TVの音量を小さくしたり、就寝しやすい環境作りを行っている。また、定期的にシーツ交換や布団干し等で清潔な気持ちの良い環境で休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、内服薬の理解を図っている。本人に変化が見られる際には、随時看護師、医師に相談または指示を仰ぎ服薬の調整等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発的に軽作業を手伝って下さる方にはそれぞれ役割を設けている。それが困難な方には、塗り絵、歌唱、散歩など余暇を楽しめるような支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の暮らしの中で、それぞれの希望を把握し、出来る限り臨機応変に買い物や散歩、また、季節行事として外食やドライブなどを行っています。	事業所前の川沿いの道を季節の花を楽しみながら、利用者同士、車椅子に乗ったり押したり散歩が年間を通しての日課になっている。ジュースを買いに出かけたり、気分転換に銭湯に行く等、いつでも利用者本位に自由に外出出来る様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としては預り金として現金は施設で管理している。利用者の状態に応じて、自身で管理されており、自由に買い物に出かけられている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を使用していただいたり、職員が連絡をつないだりいつでも家族とのやり取りができるよう心掛けています。手紙は定期的に居室担当者から家族あてに最近のご様子としてお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけや利用者様の作品を展示している。毎日の清掃、温度、湿度管理に気を配り快適に過ごせるよう努めています。	必要以上に暖め過ぎない様、温湿度の管理に気を配り、インフルエンザの予防にも繋げている。清掃が行き届いた居間には、昔懐かしいミシンやタンスが置かれ将棋を指したり、女性が集まりお化粧を楽しむ等、思い思いに日中を過ごす居心地の良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居室で過ごされたり、気の合う仲間が訪ねて来られ一緒に談笑されることもあります。それぞれがくつろげるよう配慮しながらその都度対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	自宅からの家具やテレビなど、使い慣れた物を持ち込んで頂いている。過去には仏壇の持ち込み等もありました。また、ご自身の作品を飾られたりしています。	災害時の避難の有無に役立つ様、居室のドアには、利用者の写真が貼られた札が下がり、裏には、(避難OK)の文字が書かれている。生活習慣に合わせ持ち込まれた家具は、それぞれ使い易く配置され、畳を敷いたり自分らしさを出した部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂、トイレに、居室には表札を掲げている。共有スペースには日付等がわかるように、日めくりカレンダーを掲示している。		